

# 1 自己評価及び外部評価票

## 【 事業所概要(事業所記入) 】

事業所番号	2070200411		
法人名	医療法人 心泉会		
事業所名	グループホームローズガーデン		
所在地	松本市大字中山7494-8		
自己評価作成日	令和2年2月17日	評価結果市町村受理日	令和2年6月9日

※事業所の基本情報は、公表センターで閲覧してください(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2070200411-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/20/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2070200411-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

## 【 評価機関概要(評価機関記入) 】

評価機関名	有限会社 エフワイエル
所在地	長野県松本市蟻ヶ崎台24-3
訪問調査日	令和2年3月16日

## 【 事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入) 】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護老人保健施設の併設型のグループホームとしてのメリットを最大限に活かすこと</li> <li>・併設の介護老人保健施設の医療面のバックアップ体制による安心機能。</li> <li>・併設施設の設備の利用や職員の協力により、バリエーションを広げた生活環境の構築。</li> <li>・恵まれた自然環境の下で、四季の移り変りを感じながら、仲間と生活する喜びを感じていただくこと。</li> <li>・地域の皆さんとの交流や訪問していただく方々との親睦を深めること。</li> <li>・グループホームの理念を実践していくこと。</li> </ul>
---

## 【 外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入) 】

<p>グループホームローズガーデンは、利用者が暖かく思いやりのある家庭的な雰囲気の中で、笑顔で過ごすことができるよう、体調の管理及び怪我のない生活を送ることを理念として、日々の支援を行っている。</p> <p>併設の老健施設との連携により、合同の研修会、委員会を通じて、サービスの質の向上に取り組み、また、医療面においても母体の医療機関の協力が速やかに得られる関係で、利用者、家族に安心を与えている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。ユニットが複数ある場合は、ユニットごとに作成してください。

ユニット名( )		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23, 24, 25)	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9, 10, 19)	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18, 38)	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2, 20)	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30, 31)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	家庭的な雰囲気になるようゆったり接し、レク等では笑って楽しめるような時間を作っています。 誕生会へのお誘いをする事によって、来れない方も来ていただきました。	理念はサービスの原点との意識も高く、職員だけでなく、利用者、家族の理解も得やすいものとなっている。 また、そのことにより、介護実践も迷うことなく提供がなされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中山地区の敬老会やそば祭りに参加させていただいています。地域の方が行ってくださる老健行事には参加し地域との関りをもっています。 地域ケア会議への参加等積極的に参加できるようにしています。	併設施設とともに、困難な立地条件を意識した、地域活動や住民との交流を盛んに行い、地域、小・中学生、ボランティア等への積極的なかわりや、認知症サポーター養成講座なども開催し、認知症への理解も深まってきた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人でローズカフェを開催。認知症予防・体操を行い、地域の方も参加され、認知症に対する理解を頂く機会を持っています。 初任者研修の無料講座、低料金の実務者研修も開講しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、日々の利用者様の様子を話し、理解も増してきて、協力関係が少しずつ築けてきています。今後も普段行っていることを取り上げ、委員の方との状況交換の場にしていきたいです。	定期的開催される会議ではホームでの取り組み状況の報告、意見交換、地域の状況などを収集したり、行事への参加を促したりと、利用者の今を知ってもらおう努力をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターとは、運営推進会議にて意見交換・認知症講座に参加し連携がとれています。	運営推進会議において意見交換を行い、利用者、地域住民の要望などを伝え、それが叶うこともあるなど、橋渡しの役割も果たしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会を行い、身体拘束はしないケアを職員意識して行っています。	定期的な人権に関する研修で、全職員の共通認識が高まっている。 利用者は施錠はもとより、行動制限のない自由な生活を送っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人や施設内で研修会に参加し、勉強会を行っています。言葉使いに注意を払って虐待防止につなげています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関心、職員の学ぶ機会をもち、研修会へ参加できるようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、老健事務部門で行っていますが、疑問や不安のあることは理解して頂けるよう説明させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時は現状を伝えるとともに、要望等聞けるように努めています。	玄関を入ると日々の利用者の生活がすぐにわかる取り組みがなされているので、家族等は安心で、また、面会についても、安心できるスペースや居室を活用し、意見等については速やかな検討を経て、運営に活かすこともある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	併設施設との定例会議や、グループホームでの会議において検討されている。	施設の全体会議、ホームのスタッフ会議で職員の意見、気づき、管理者の提案が盛んになされており、効率化と質の維持・向上が恒常的にサイクル化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人において人事評価制度を導入し、ストレスチェックも行うことで、職場環境の整備が来ています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の方針として、個人のスキルアップのための研修計画や各種資格取得への応援態勢を整備しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野県の同業者のネットワークに加盟しており、積極的に参加しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様と十分に話しをする機会を作り、どのように生活を営みたいのかをお聞きして、希望に沿えるよう努めています。言葉にできない方は察して接する等心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際には、ご家族様とも話しを行い、グループホームでの生活について、ご本人の希望や不安などを検討しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族との話し合いの中で、細目に対応できるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	談話の時間を設け、コミュニケーションを図りながら仲間としての関係を築いています。手伝い等やりたい事が出来るように一緒に取り組んでいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションも大事にし、常に同じ立場でご本人のことを考えるような関係を築くことを心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	松本周辺のドライブに行き、思い出されてもいるようで、今後も継続していきたいです。馴染みの方の面会も居室でゆっくり会うことが出来ています。また、行事参加、今までいた老健職員とのつながりを大切にしています。	馴染みの職員がいる併設施設への外出も多彩であるが、それ以外にも地域行事や松本周辺へのドライブ等の外出支援が盛んに行われている。また、誕生会などは、家族の都合に合わせた開催日程とするなどの努力もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの個性を尊重し、大切にすることで、利用者同士のトラブルに配慮しながら、協調していく関係作りを目指しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後でも、必要に応じ相談や支援を行っています。病院・老健にいかれた際は声掛けを行ったり話しています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、一人ひとりに寄り添い、訴えに耳を傾け、希望や意向に添えるようにしています。また、コミュニケーションの中からも汲み取れるように努力しています。	コミュニケーションの取りづらい利用者も多く、なり困難ななかで、本人の生きた時代の暮らし、エピソードや愛称などを紐解き、本人本位の生活となるように努めている。 なお、隔月のホームのおたよりを見る事で、利用者の思いが叶えられているものと推測できる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族様から話しを聞き、日々の生活の中の会話から、様々な情報についての把握に努めています。 また、面会時での話の時には情報把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の暮らしの中で、職員が日々の様子を観察し、現状の把握を行っています。 バイタルチェック・表情の確認をし、申し送りの中で、情報を共有し把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係する部署や以前の様子を知っている方からの情報をとり、御家族様からの意向を取り入れて、サービス会議をして介護計画を作成しています。	月2回のホーム会議で日中・夜間のおむつ、各種調整薬、受診報告などが共有化され、介護計画に活かしている。	本人の生活が今後どのように変化していくのかなどの理解が進むことで、後悔のない、「今しかできない支援計画」となり、本人にとっての更に充実した支援の実施が可能になると思われる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等個別に記録をとり、職員間で情報を共有し、介護計画の作成、見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別のニーズに対応できるよう本人や家族の状況、日々変化するニーズに職員間で工夫して行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々や、幼稚園生との交流を積極的に行ない、楽しむ機会をたくさん作っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院以外にも、本人・ご家族様の希望があれば、かかりつけの医療機関への受診も行っています	法人が医療機関であり、併設された老健の看護師による毎日のバイタルチェックと観察が行われ、異常時や急変時の対応と適切な指示や処置が行われることで家族の安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老健看護師には毎日様子を見ていただき相談もしています。異常時や急変時の対応、また状況に応じた適切な指示・処置を受けています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院とは常に連携をとっており、情報交換や相談ができるようにしています。ドクターやナースにもいつでも連絡ができるようになっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについてはドクターより家族に話をし、マニュアルが作成されているため対応できるようにしています。	入所時に、重度化や看取りについての事業所の方針を説明し、状態の変化に伴い家族との話し合いが医師の説明のもとに行われている。 看取りに関するマニュアルも整備され、受け入れ体制はできているが、ここ2年の看取りはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時・事故発生時は併設施設の看護師がすぐ対応してくれてます。AEDの勉強会に参加しカンファレンスで緊急時の対応について話し合っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	老健と合同で行う防災訓練に参加し、職員間でも会議、カンファレンスで話をしています。 内田地区とは、防災無線の対象施設に加えていただいています。	併設された老健との防災訓練が実施され、想定される災害に備えて備蓄の他、来年度には発電機の購入も予定している。 地域との災害時の連携を意識して、SOSの発信が速やかにできる様に、運営推進会議においても話し合われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にし、言葉掛けには配慮させて頂いています。 面会時には、プライバシーに配慮し談話室または居室でお話できるようにしています。	人生の先輩として利用者の人格尊重・尊敬を大切にしたい対応に配慮して、本人の希望を優先にゆっくり過ごすことができるように支援をしている。 入所時には利用者の生い立ち、家族構成、これまでの人生を聞き取り、職員が共有しての支援が提供されている。	利用契約の際には、入浴や排泄時の異性介助や同性介助についての説明だけでなく、同意を得る取り組みも期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に話をする中で本人の思いや希望を聞き、どのようにしていくのか一緒に考え対応しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望を優先し、無理強いはずせず声がけをしながら、ゆっくりすごせるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が選んで好きな洋服を着て頂いています。入浴時は一緒に選んだり、本人に用意して頂いてもいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日会にはケーキを作ったり季節ごとに利用者様と一緒に考えておやつ作りを行っています。 食事の片付けはお膳を拭いてもらったりして一緒に行っています。	栄養士により計算されたバランスの良い食事が提供され、量や形態にも配慮している。 毎月の行事食、郷土食には食事が楽しみになるようにお品書きが添えられている。 また、毎月給食だよりが発行され、嗜好調査も行い、利用者の意見を聞く機会としている。 誕生日にはケーキを手作りして家族と祝う時間も設けている。 食前の口腔体操、食後の口腔ケアが行われ、最終確認を職員が行い、歯科衛生士の助言も受けることが可能である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個人の状態に合わせて量や形態を見て対応しています。 水分はお茶以外でもいつでも摂取できるように準備し、訴え時にも対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨きを行っています。自分で行える方は本人ですが、できない方についてはできるところまで磨いて頂き、最終確認を職員で行っています。老健歯科衛生士からも助言受けています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツの使用量をなるべく減らすためにも定時誘導や訴え時の対応をしています。排尿量によって、一日のうちでも使用するオムツへの種類を変えて対応しています。	排泄の自立を大切にしながら、定時の声掛け誘導や本人の訴えによる対応、また、排尿量に合わせて、一日のうちでも種類の違ったものの対応もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	AMのおやつ時、カスピ海ヨーグルトを提供したり、歩行・水分摂取を促し便秘の予防に努めています。排便の様子を一覧にし、下剤の対応や状況を共有しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の体調や希望により時間帯も配慮しています。ゆったりとした入浴ができるよう1対1の入浴を心掛けています。季節によってゆず湯、バラ風呂にして楽しんでもらっています。	利用者の希望や体調に合わせた入浴ができる様に配慮し、また、季節によってはゆず湯、バラ湯を楽しんで貰っている。介助浴が困難な場合は、併設施設での機械浴も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の様子によって昼休みをしてもらったり、夜間も眠れないときはホールで過ごしていただく等、個々に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の指導の下、服薬管理を行っています。薬の内容や副作用等を理解し、個々の服薬支援ができるよう連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	老健行事へ参加し、歌・踊り・演奏等、楽しみの一つになっています。季節ごとの行事にも参加できています。散歩に出て、気分転換が図れるように支援につなげ、嗜好品を買いに行ったりもできています。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	グループホーム内で定期的な外出を計画しています。季節に合わせたドライブや外食、利用者の意向を聴きながら支援に結び付けています。	年間の行事計画には春のお花見や秋の紅葉ドライブ、商業施設への買い物などが計画され、楽しみとなっている。併設の老健で開催されるローズカフェやローズ祭りには地域の方の参加もあり、交流の場となっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理ができる方には、本人に管理をお願いしています。持つことで安心している方もいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて、電話のやり取りの支援を行っています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、季節ごとに壁面を作って飾っています。テレビの音量や部屋の明るさ等カーテンで気を付け、皆がゆったりと心地よく過ごせるように配慮しています。	洋風の広いホールには小上がりもあり、和の雰囲気を感じ出し、季節に合わせた職員の飾りや利用者で作った壁の飾りは季節感と懐かしさも容易に感じる。食事の後には新聞を読んだり、テレビを見たり、ゆったりと過ごす利用者の姿もある。なお、自走車椅子の移動も安全に配慮した広さである。 季節になれば、狭い畑ではあるが職員手作りの野菜を鑑賞する機会も設け、野菜の原色を目にすることが可能で、目の栄養への配慮と理解する。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室で一人ゆっくり過ごす方、気の合った方同士が自由に過ごせるように、椅子や机を数か所に置いています。気の合った方同士席を隣にして配慮もしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	枕や布団等も利用者の希望により自宅より持ってきていただいています。家族の写真等を飾り本人の居場所となるようにしています。写真や時計など、馴染みのあるものを持ってきていただけるようお願いしています。	広めの居室にはベッドや収納が設置され、寝具は利用者の使いなれた物、好みの物を使っている。家族の写真を飾ったりし、本人の落ち着ける居場所となるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はスペースが広く、歩行訓練やリハビリテーションを行うことが容易で、車いすが自走できる方には自立できるようなスペースとなっています。見守りを徹底し、自由に行動・生活ができるように配慮しています。		